

**2019年 春学期**

**社会科教材論  
第2回**

**学習者の疑問をもたらし教材  
作りについて  
——有田和正の教材論——**

# 【確認】この授業で大切にしたい視点

1. 教材作りを単なるテクニク的な問題と考えること
2. 「良い教材って何だろう？」という問いをめぐって、自分の心境・考えの変化について、向き合うこと
3. 完成品の教材の完成度よりも、「教材を作るプロセス」に注目・意識すること

今日のアイスブレイク

# **【確認】この授業の最終的な目標**

- **全員の教材のデータが収録された冊子を作ります。**
- **編集作業などもしてもらいます。**



# 前回のDVD動画の感想共有

感想を3～4人一組になって、  
共有してみましょう  
(一人1分程度で計5分程度)

## 【意見共有の際に、気を付けて欲しいこと】

1. 大切なのは、全員が一通りの感想を言った後の最後の1～2分でグループで会話が続くかどうかということ。
2. 相手の感想を聞きながら、「自分の考えとどう違うか？なぜ違うか？」という点に注目すると、その後の会話がしやすい。

本の表紙  
(授業時  
のみ)

齊藤孝(2006)  
『質問力』より

**授業やります**

# 今日の授業の目次

## ・自己紹介タイム

### 【授業】

1. 有田和正の経歴について
2. 有田和正の教材論について
3. 有田和正のネタを用いた実践の検討
4. 有田和正の日々の教材研究の手法について
5. 来週までの課題についての説明

振り返り・記録シートの記入時間

# 有田和正氏の経歴について

- **1935年福岡県生まれ。**
- **玉川大学文学部教育学科卒業。**
- **福岡県の公立校、福岡教育大学附属小倉小学校で勤務。**
- **筑波大学附属小学校で勤務**
- **愛知教育大学教授。**
- **1976年 社会科・生活科教科書(教育出版)の著者。**
- **1999年3月愛知教育大学定年退官**
- **教材・授業開発研究所代表**
- **東北福祉大学特任教授を歴任。**
- **2014年5月没**

本の表紙  
(授業時のみ)

本の表紙  
(授業時のみ)

社会科だけに留まらず、  
膨大な著作がある。

# 1. 有田和正の教材論について(材料7分に腕三分)

「材料7分に腕3分」という言葉が料理の世界にある  
そうだが、これは教育の世界にも通用することである。

いくら腕がよくても、材料が変わるければ、どうにもならないということであろう。学習意欲を高めるにも、良い教材を使うと効果的だが、そうでない場合は、せっかくの意欲がしぼんでしまうのである。では、良い材料を選ぶのは誰か。それは料理人自身である。そうすると、料理人の腕の第一は、「よい材料を見分ける眼力・技術」ということになり、腕すなわち料理をする技術は第二ということになる。

教育の世界においても、材料のよしあしが大きく影響する。子どもの実態にマッチしたよい材料を開発できたとき、授業は成功したも同然である。このため、わたしは、いかによい教材を開発するかに大きな精力を注いでいる。



本の表紙  
(授業時の  
み)

# 1. 有田和正の教材論について(活動)

- (1) 有田和正の教材論を以下の【資料】1~4をもとに、大まかに要約してください。情報も紙面も限られています。資料を読み、自分なりに有田和正氏の教材論の全体像を想像しながら考え、もっとも本質を突いていると感じるような、要約文を完成させてください。
- (2) その上で、その教材論に対して、「惹かれるところ」「ツッコミたくなるところ」を書きこんでください。
- (3) グループで意見を交流し、「クラスメイトと意見共有をした際の新たな気づき・視点など」を書きこみます。他のメンバーに新たな気づき・視点を与えられるような、個性的な要約や意見を期待します。

## 2. 有田和正のネタを用いた実践の検討

今回検討してもらおう実践は、単元「日本の国土——富士山の見える日——」というものです。

1. 授業記録をもとに、以下の問いに答えてください。

「もしも、あなたが学習者だったら、この実践で提示された教材や授業の流れから疑問がわきますか？それはなぜですか？」

2. 15分たったら、意見をグループで共有してもらいます。

### 3. 有田和正の日々の教材研究の手法について

- 常に問題意識を持って 【資料7】
- 常にメモを持って 【資料7】
- 手あたり次第に本を読め 【資料8】
- 面白い本の見つけ方 【資料8】
- 鉛筆をもって新聞を読め 【資料8】

## 5. 次回までの課題についての説明【重要】

2週間後の授業までに、各自(個人)が面白いネタを探して、A4二枚程度のレジュメ資料をまとめてきてください。その際に、有田実践の「富士山の見える日」の書き方と同様に、あなたがそのネタに興味を持ち、調べていったプロセスも書いてほしい。

次回の授業では、グループ内でネタを披露し合って、グループ内で特に疑問を生んだアイデアを選び、グループ発表まで進化させていきたいと思います。

### 【提出するレジュメのポイント】

- A4用紙2枚程度
- 書くべき論点は「あなたが思う面白いネタの説明」「そのネタを見つけるに至ったプロセス」の二点である。
- 「あなたが思う面白いネタの説明」に関しては、図や写真など、ネタをわかりやすいデータがあることが望ましい。
- 有田氏が言うように、あなた自身が追究したいと思えるネタを見つけること

# 「振り返り・記録シート」の記入

**この授業では、「自分の教材観から見える、授業観」を見つめることを重視します。**

**自分の考えの変化、違和感、モヤモヤ感を出来るだけ、言語化するようにしてください。**

**(後で、自分の授業観を振り返るための重要な記録になります。)**



【クラスメイトと意見共有をした際の新たな気づき・視点など】

## 2. 有田和正のネタを用いた実践の検討

今回検討してもらう実践は、単元「日本の国土—富士山の見える日—」というものです。【資料】5～6をもとに、以下の問いに答えてください。

もしもあなたが学習者だったら、この実践で提示された教材や授業の流れから疑問がわかりますか？それはなぜですか？

【問いに対するあなたの答え】

「なぜ、そう思ったか？」の根拠を出来るだけ詳しく、具体的に書くと意見共有の時に他者の役に立ちます。

【クラスメイトと意見共有をした際の新たな気づき・視点など】

「確かに！」「そういう視点も言われてみればあるなあ」「自分はそうは思わない」など、印象に残ったことを出来るだけ沢山メモすると後で役立ちます。

## 「第2回 社会科教材論：学習者の疑問をもたらす教材作りについて——有田和正の教材論——」の配布資料

### 「1. 有田和正の教材論について」のための資料

#### 【資料1】

教材のとらえ方にはいろいろあるようだが、圧倒的に多いのは、教科書にかいてあるものが「教材」というとらえ方であろう。

私は、この考え方から抜け出さない限り、社会科の活性化は出来ないように思う。なぜなら、今の教科書に出ている教材内容が、全面的に入れ替わった時、新しい社会科が成立しているのではないかと考えているからである。

目に見えにくい社会を、何らかの形で見えるようにしたり、社会を見るための手がかりになるものが「教材」である、と私は考えている。

では、社会を見るための手がかりになるものは何でも教材になりうるかというと、そうではない。何らかの意味で、子どもの思考体制をゆさぶり、変容をもたらすものでなくては、教材として成立しないと思う。言い換えると、教材は、子どもの常識を覆し、固定観念を打ち破るものでなくてはならないし、子どもの眼を開かせるもの得なくてはならないと思う。

「教材」をこのようにとらえると、教科書にあるものが全部「教材」になることはありえないし、隣のクラスで有効だった「教材」が、自分のクラスで必ず有効に働くとも限らないということになる。教材のよしあしは、それを学ぶ子どもとの関係の上で言えることである。

この意味で、教科書の中にもいい教材はあるし、私たちの生活に密着した事象の中にも、良い教材は沢山ある。ただ、それを教師が見つめることができるかどうかが問題である。

教材研究というのは、教師が自分の学級の子どもの実態を思い浮かべながら——たとえば A 児の今の考えをひっくり返すにはこの教材がよいだろう、B 児にはこの切込みが有効だろう、C 児はこんな反応をするのではないかと考え、子どもたちが追究していくであろう内容を広げたり深めたりすることであり、子どもたちにぜひとも「これだけは追究させたい」というものを持つことだと思う。教師に見えないものや、とらえることのできないものを、どうして子どもに追究させることができよう。教師が教材研究をして納得し、深めることができたとして、子どもたちにより深く追究させることができる。

本当に苦心して発見したことや、感動したことは、何としても子どもに体験させたい、追究させたいと思うようになるのが教師であろう。これをもつようになることが「教材研究のいのち」である。

教師が感動し、しかも、子どもが全力をあげて取り組むことができるものを、どう準備し、どう授業に組織していくか、ということが教師の最大の仕事である。また、教材について教師が十分に研究し、その本質を把握しておくことは、一人一人の子どもの動きの一部を予想することにも通じるのである。逆に、子どもの動きを予想した教材研究をすることによって、教材解釈の幅をグッと広げることができる。

(有田和正(2016)『名著復刻 楽しい社会科授業作り入門』明治図書, p.85-88.)

#### 【資料2】

具体例をあげて述べてみよう。

恥ずかしい話だが、わたしは教師になって何年間も、「干拓」と「埋め立て」の区別がつかなかった。三度目に四年生を担当し、「干拓」を研究授業でやろうとしたとき、「同じなら別の言葉で表現するわけがない」と気づいた。

違うはずだと思って参考書をあれこれ調べてみると、やはり違うらしいことが分かってきた。しかし、長い間「同じ」と思ってきたので、簡単には納得できない。

そこで、何冊も本を集め、かたっぱしから違いだけを洗い出していた。すると、干拓と埋め立ては、それ

が行われる「場所が違う」ことがわかり、できた土地は農林省と建設省に属していることも分かった。土地の質の違いもつかめた。こうして、干拓地と川・用水路・道路との関係などもつかめ、目からうろこが取れる想いであった。

私は干拓と埋め立ての違いを調べているうちに、この内容の深さ・面白さにほれ込み、何としても子どもたちに私の感動を伝えたいと思うようになった。こうして研究授業の教材は、「干拓と埋め立ての違い」にきめた。子どもたちも、私と同様、干拓と埋め立ては同じだと考えていたが、提示した資料(土地の造成の仕方をかいた絵)で違いに気づき、造成の仕方の違いや、使用法の違いに追求の目を向けていき、私以上に感動的に学習を進めた。

私は、この教材研究と学習指導で多くのことを学んだ。

第一に、教科書などの中にある教材に対して疑問を持つことの大切さである。何気なく見逃していることの中に、おかしいことや不思議なことがたくさんあることに気付いた。

第二に、疑問や問題をもったら、徹底的に納得のいくまで調べ、問い続けることである。一冊や二冊の本で満足せず、徹底的に調べることである。

しかし、いまだに残念に思っていることは、どうして現地に出かけなかったかということである。この失敗を活かして、以後できるだけ現地に出かけている。

第三に、教材というと、どこかに客観的なものが存在するかのようになり、それまで考えてきたが、結局「教師自身によって体験され、把握されたものにほかならない」ということがつかめたことである。

すなわち、教師自らが学び、「このことは何としても追究させたい」という強い願いを持つようになった時、それが「教材」となり、その意義込みや迫力のようなものが子どもの追究心に火をつけ、子どもを意欲的にする、ということが体得できたのである。

第四に、子どもを追究させようとするならば、教師が追究し、学び続けなければならない、ということである。既製品の教材では役に立たない。絶えず新しい教材を開発して、「私の教材」をもって子どもと勝負しなくてはならない。子どもたちは、手作りの教材に飢えている。

(有田和正(2016)『名著復刻 楽しい社会科授業作り入門』明治図書, p.88-90.)

### 【資料3】

#### ○ネタで勝負

授業を計画するとき、教師は「目標→内容→方法」という順序で考える。まず「目標」を考える。次に、目標に対応した「教育内容」を考える。そして、教材(ネタ)で、子どものどんな考えを引き出せるか、おかしな考えが出てきたら、どう対応していくか、などを考える。このための、発問や手順、資料などを考え、指導案を書きあげる、というパターンが圧倒的に多い。

この思考パターンをくずすことだ。立派な目標を考える前に、どんなネタで勝負するか考えることにしよう。そして、おもしろいネタを見つけよう。ネタが見つかったら、目標をもっともらしく考えればよい。いや、考えなくても、ネタが決まれば目標も決まる。

例えば、「一寸法師」をネタにしようとする。すると、「一寸法師で戦国時代の下克上をつかませる」という目標が自然にきまってくる。「一寸法師のモデルは誰か」と、発問することによって、「信長・秀吉・家康らの戦国武将を引き出す」という目標も出てくる。これでネタとねらいが決まった。

授業の形態は、当然「じっくり考えあう」ということになる。なぜなら、かなり抵抗のある内容だからである。史料は、一寸法師のあらすじの典型場面をあらわした絵、四枚が必要だろう。絵本もあった方がよい。一寸法師の歌のレコードも準備しよう。

ここまでくると展開順まで決まる。まず、一寸法師のレコードを聴かせる。子どもが笑いながらも、いつの間にか歌い出す。歌詞があらすじになっていることに気付く。そこに四枚の絵を提示・・・と。

面白い授業をするには、「何で勝負するか」ということを、第一に考えよう。

(有田和正(1987)『教材発掘の基礎技術』明治図書, pp.145-146.)

#### 【資料4】

##### ○ネタの視点

以上のことを別の形でいうならば、(良いネタの条件とは、) 次のように言える。

- 固定観念をひっくり返す。
- 思考の曖昧さを突く。
- 子どもの意表を突く。
- 教材と新鮮な出会いをさせる。
- 事実を確かに見させる。

などによって、子どもに「驚き」「困惑」「葛藤」「感動」を引き起こさせ、切実な問題をもたせるようにするのである。

(有田和正(1987)『教材発掘の基礎技術』明治図書, pp.161-162.)

## 「2. 有田和正のネタを用いた実践の検討」のための資料

※授業時は、有田和正(1987)『教材発掘の基礎技術』明治図書, pp.174-187.を掲載した)

## 【資料 6】

### 1. 単元の目標

○日本の国土の特色や自然条件を、自分たちの生活と関連付けてとらえさせるとともに、産業の発達によって、国土の様子も変化してきていることをとらえさせる。

○国土の自然条件を、プラス面とマイナス面の両面からとらえることができるようにし、生活を高めるための生き方を考えることができるようにする。

### 2. 指導計画（18時間）

第1次 季節によって「富士山が見える日」が異なるのは、どんな自然条件と関係があるかを考え、追究問題をつかむ。（本時）【1時間】

第2次 公害による国土の荒廃と自然浄化力との関係について調べる。【6時間】

第3次 国土の自然（川・湖・海・森林・都市における緑など）を、どう守っているかを考えあう。【6時間】

第4次 住みよい国土にするために、どのようなことが行われているかを調べる。【5時間】

### 3. 本時の指導

ねらい

東京から、「冬に富士山が良く見えるのはなぜか」という問題をつかませ、それは冬の季節風による空気の浄化力によるものであることに気付かせる。また、日本の国土を浄化しているものが他にあることに気付かせる。

（有田和正(2016)『名著復刻 楽しい社会科授業作り入門』明治図書, pp.123-124.）

## 「3. 有田和正の日々の教材研究の手法について」のため参考資料

### 【資料 7】

#### ○常に問題意識を持つ

教材を発掘していく人間であるためには、常に、何らかの問題を持ち、それを常に考えていることである。毎日続けるためには、考える時間と場所を決めておくのも良い。たとえば、トイレの中で考える、ふろのなかでゆっくり考える、寝床の中で構想を練る、通勤電車の中で考える（満員で本が読めなくても考えることはできる）、散歩の時間に考える、コーヒータイムに考える、などが考えられる。

また時間ごとに、違うテーマを考えることも面白い。トイレの中ではアイデアを練る、朝の電車は授業の構想を練る、帰りの電車は帰ってからの仕事の進め方を考える、コーヒータイムには遊びの計画を考える、などである。

日本画家の杉本寧氏は、ものごとを、いつも正確に見たい、もっと正確に見たいと努力しているうちに、つい画家になってしまったという。常に問題意識をもって、一歩踏み込んでみるくせをつけることが大切だ。

#### ○常にメモを持つ

教材を発掘するためには、広くヒントを集めることが大切だ。多くのヒントを集め、それをあたためることから、良い教材が発掘できる。このためには、常に、「メモ用紙」を身につけて、たえず持ち歩くことだ。アイデアマンは、形式はともかく、何らかのメモ用紙を常に持っている。問題意識をもっていると、不思議に情報が集まってくる。新聞を見ても、雑誌を見ても、情報が飛び込んでくる。逆に関心がないと、良い情報が素通りしてしまう。

ヒントになるものや、面白い情報に気付いたら、いつでも、どこでも、書く癖をつけることだ。机の

上でないと書けないようでは、情報の方から逃げていく。電車の中でも、喫茶店の中でも、はては、歩きながらも、さっとメモする習慣を身につけることだ。他人と話している時でも、ひらめくものがあったり、ヒントがキャッチできたら、すぐ書くことだ。人前だからと恥ずかしがっていては、すぐに忘れてしまう。記憶をあてにしないで、必ず、直ぐにメモすることだ。このためには、メモ用紙をあまり大きくしない方がよい。私は、画用紙4分の1大の用紙を使っている。片手にもって書くのにちょうど良い大きさだからである。また、書いたものをノートに貼り付けるのにも、少しゆとりがあって良いからである。

・・・

とにかく、わたしは、手あたりしだいに気づいたことをメモし、それをもとに教材を発掘している。これを継続することが大切だ。

(有田和正(1987)『教材発掘の基礎技術』明治図書, pp.29-36.)

## 【資料 8】

### ○手あたり次第に本を読め

我々が情報を入手する最大のものは、本であり、雑誌であり、新聞である。本の入手の仕方、読み方がうまくなるだけでも、知的生産の量と質が大きくなっていく。故太田壮一氏は、自己啓発の方法として、「読書、耳学問、旅行(とくに海外旅行)」を挙げている。うなづけることである。

### ○地中海は八つある？

地中海は、世界に八つある。といったら、誰でも「でたらめいうな」と言う。「地中海」というのは、ヨーロッパとアフリカにはさまれた海だという固定観念があるからだ。つまり、「地中海」とは、固有名詞だと思っているからである。ところが、本当は「普通名詞」なのである。「地中海というのは、1つまたは複数の大陸に囲まれた比較的大きな内海で、たいていの場合は、狭い海峡によって大海とつながっている。」と、高野孟氏は、『世界地図の読み方』(日本実業出版社)の中で定義している。そして、地中海を大きい順にあげている。①北極海、②オーストラリア・アジア地中海、③アメリカ地中海④ヨーロッパ地中海⑤ハドソン湾⑥紅海⑦バルト海⑧ペルシャ湾、である。北極海が地中海であることは、北極圏を上から見た地図をみると、なるほど北アメリカ大陸、グリーンランド、ユーラシア大陸の北辺に囲まれた丸い海であることが分かる。

・・・

「地中海が八つある」ということが目に飛び込んできたとき、本当に驚いた。これだけでこの本を買った価値があると思った。そして、高野孟氏の別の本が読みたくなった。要は、こういう目のウロコをとってくれるような本を見つけて、たくさん読むことである。・・・清水市の杉山裕之氏などは、雑誌だけでも19冊も持っているという。それも、教育雑誌だけだと情報が片手落ちになるので、いろんな雑誌を読んでいるという。すばらしい教師だ。質の高い情報を入手するには、杉山氏のように、幅広く読むことである。全く教育に関係のない分野から、ヒントを受けることが多いのである。しかし、多く読むだけが能ではない。主体的に読むことが大切である。考えながら読むことがさらに大切である。

### ○面白い本の見つけ方

- ・ 問題意識があり、何かをさがして求めることが、第一である。
- ・ 第二に、書評(雑誌、新聞など)に出るものに気を付けていくことである。
- ・ 第三に、出版社が出している「出版案内」に気を付けることである。
- ・ 第四に、大きな本屋、たくさんの本のある書店へ通い、どの棚に、どんな本があるか頭に入れておくことである。新しい本が入ると、すぐにわかるからである。
- ・ 第五に、「著者」に目を付けて買う、ということである。
- ・ 第六に、面白い話をする人や文を書く人には、どんな本がおもしろいかをたずねることである。

- 第七に、雑誌の論文や、本の参考文献、引用文献に気を付けてみることである。
- 第八に、地方に行ったら、「地方出版」の本に気を付けることである。

とにかく、自分にあった本の見つけ方を、自分の学習法の一環として創り出すことが大切である。一流の人は、本の選び方もうまい。こうなると、良いネタが自然と集まるようになる。

### ○鉛筆をもって新聞を読め

新聞を読むときに、赤鉛筆をもって読む癖をつける。「これだ」と思うものがあったら、赤鉛筆でしるしをつけ、後で切り抜く。この時気をつけることは、しるしをつけるところで、できるだけ少なくすることだ。どうせ後では読まないのだから。だから、「切り抜いて→読む」のではなく、「読んでから→切り抜く」ことが大切である。このためにも、赤鉛筆が必要なのである。

・・・

いきなりホームランを打とうとは思っていない。内野手の間をやっとぬけるような、ポテポテのヒットを打つことを心掛けている。つまり、小さなヒントになるものを沢山集めて、それをもとにして自分で考えていく。新聞はもちろん、本、雑誌を読むとき、他人の授業を見るときなども、何かヒントになるものはないか、とみている。研究発表や講演などを聞くときも、同じ姿勢で聞く。だから、私は、色々な本や雑誌を、チラッと見るようにしている。もちろん、立ち読みもする。どこに、どんなヒントになるものがあるかわからない。だから、アンテナを広く張りめぐらしている。気がついたら、いつでも、どこでも、メモを取る。記憶をあてにせず必ずメモをとる。切りぬきをする。

こういう努力の積み重ねが、「カン」を培っていくのではないかと思う。

(有田和正(1987)『教材発掘の基礎技術』明治図書, pp.57-70.)

# 社会科教材論の次回までの課題についての説明

## 1. 課題の趣旨

2週間後の授業までに、各自(個人)が面白いネタを探して、A4二枚程度のレジュメ資料をまとめてきてください。その際に、有田実践の「富士山の見える日」の書き方と同様に、あなたがそのネタに興味を持ち、調べていったプロセスも書いてほしい。

次回の授業では、グループ内でネタを披露し合って、グループ内で特に疑問を生んだアイデアを選び、グループ発表まで進化させていきたいと思います。自分のアイデアが皆に認められるように、是非気合いを入れた課題提出をお願いします。

## 2. 提出するレジュメのポイント

- A4用紙2枚程度に収めて書くこと。
- 書くべき論点は「あなたが思う面白いネタの説明」「そのネタを見つけるに至ったプロセス」の二点である。
- 「あなたが思う面白いネタの説明」に関しては、図や写真など、ネタをわかりやすいデータがあることが望ましい。
- 有田氏が言うように、あなた自身が追究したいと思えるネタを見つけること

## 3. 本課題の評価の規準・基準

評価	文章表現力	ネタの面白さ	プロセスの記述	学習内容との接続
良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第三者が読んでも非常に読みやすい文章で、誤字脱字・改行等のミスもない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習者の固定観念や認識を予め想定し、自分のネタがその固定観念を覆すものであるということを詳しく説明出来ている。</li> <li>• グラフ、写真などの何らかの挿入資料がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プロセスの記述の中から、自分自身が探究する楽しみを感じられていることが伝わってくる。</li> <li>• 実体験であることがわかるような、具体性や詳しさ、時間軸の説明があること。</li> <li>• 複数の資料やデータを読みこなしていることが、分かるような記述があること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネタが単なる導入の小話でなく、ネタを追究した先に、学習内容の結論があることを論じている。</li> </ul>
普通	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誤字脱字・改行等のミスがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネタの意図自体は分かるが、学習者の固定観念を覆すという意味において、やや工夫が少ない。</li> <li>• グラフ、写真などの何らかの挿入資料がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プロセス自体は具体的だが、自分自身が探究する楽しみを感じているか不明確。</li> <li>• 調べる資料の数が限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネタがどのような学習内容(中学校社会)を教えるものとして想定されているのか、その繋がりについて、明確に説明がなされている。</li> </ul>
良くない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誤字脱字や改行等のミスがある。</li> <li>• 資料のビジュアル面で難がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネタそのものの意図がやや不明瞭で分かりにくい。</li> <li>• 全体的に説明する工夫が足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プロセス自体の説明も不明瞭で、ネタ探しにそこまで時間をかけたように感じられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネタと学習内容の繋がり自体が、不明瞭である。</li> </ul>